平成29年12月20日

「小（中）学校　新学習指導要領解説『総則編』のポイント」 No. ５

「教科等横断的な視点で作成する指導計画等」

北海道教育庁胆振教育局義務教育指導班作成指導資料

平成29年３月31日に告示された新学習指導要領の「総則」における「解説」について、前回に引き続き指導資料を作成しました。

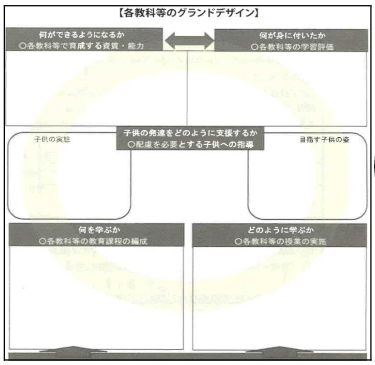
本指導資料No. ５では、カリキュラム・マネジメントの３つの側面に示される「教科等横断的な視点」で作成する指導計画等について記しました。

各学校では、これまで、教育課程の編成は、多くの場合、教科書付属の編成表を基に年間指導計画を立てることが多かったと思われます。しかし、各学校の子どもたちや地域、学校の実態に即した教育課程の編成が大切です。「学習の基盤」となる資質・能力を教科等横断的な視点から育成するため、学校のグランドデザインを作成したり、各教科等の年間指導計画を作成したりして、全ての教職員で共通理解を図り、授業改善を図ることができるよう校内研修等で活用願います。

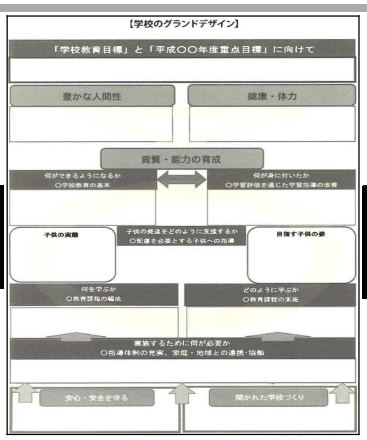
＜カリキュラム・マネジメントの充実＞　　新小学校学習指導要領「総則　第１章第１の４」

４　各学校においては、児童や学校及び地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことに努めるものとする。

指導計画作成の実際

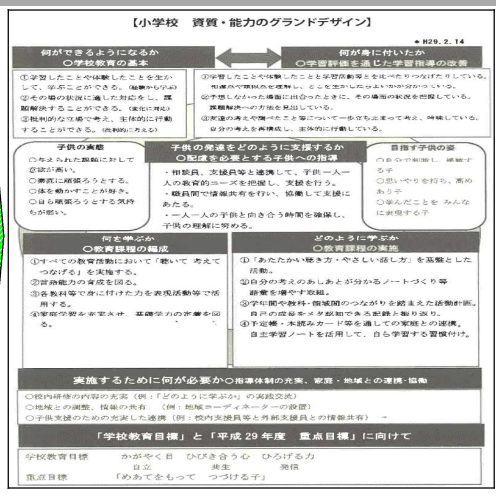


【各教科等のグランドデザイン様式例】



【学校のグランドデザイン様式例】

【資質・能力のグランドデザイン記載例】→



「学校のグランドデザイン」は、各学校において、管理職や教務主任など一部の教職員が作成するのではなく、全ての教職員が参加して作成します。

「資質・能力のグランドデザイン」は、「資質・能力」の育成を学校教育法第30条第２項の内容を具体化することが重要です。

「各教科等のグランドデザイン」は、実際に、各教科等で行われる授業と学校教育目標をつなぐ役割を担うものであると考えましょう。

「各教科等の年間指導計画」は、これまで各教科等で作成してきた編成表と同様で、各教科等で年間の指導に合わせ、いつ、どのような内容を、何時間かけて、どのように指導するのか、単元や題材の指導計画の基となります。指導計画の作成に当たっては、「単元や題材など、内容や時間のまとまりを見通しながら」作成する必要があります。また、**「教科等横断的な視点で育成する学習内容」**を年間指導計画に位置付けることが大切です。

各教科等の年間指導計画（様式例）

時期	単元名	学習指導要領の領域・内容（時数）			評価規準 学習指導要領に示されている【指導事項】	単元の評価規準	評価方法	主な学習活動	具体的な言語活動	**教科等横断的な視点** 【カリキュラム・マネジメントでの位置】 他教科等との関連
		知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度						
４月上					①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③主体的に学習に取り組む態度	①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③主体的に学習に取り組む態度				
４月中										

※「新学習指導要領がめざすこれからの学校・これからの授業」髙木展郎他著から引用